

# NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

Event

## COMPAQ INNOVATE FORUM '97 開催 PCサーバーメーカーとしての インターネット戦略を鮮明に

PCサーバーのシェアで世界のトップを占める米コンパック・コンピュータ・コーポレーション（以下コンパックと表記）が米国テキサス州のヒューストンで4月7日から10日までの4日間、プライベートショー「COMPAQ INNOVATE FORUM '97」を開催した。各国の販売代理店や同社公認のシステムインテグレーター、販売店、プレスなどを招いて2年ごとに行われているもので、5,000人が参加した今年はインターネット分野への新しい取り組みが発表されたことが注目される。

編集部 / 片岡義明

### PCサーバー市場で トップのコンパック

コンパックは一般ユーザー向けのPC（パソコン）市場においても大きなシェアを占めるが、他社と比べて抜きん出ているという状況ではない。同社がもっとも得意とするのは

サーバー用のPC、いわゆる「PCサーバー」の市場だ。ウィンドウズNTやインテル系CPU用のUNIXのプラットフォームとして、安価なコンパックのサーバーは抜群の人気を誇り、世界のPCサーバー市場で約3割を占める。今回のショーでは新しいノートパソコンの発表も行われたが、主としてPCサーバー関連の話題が大きかった。

### ネットワーク事業に 本格参入

コンパックCEOのエッカード・ファイファー氏は基調講演において「かつて80年代にPCでやったことと同じことをネットワークでも行う」と述べた。アクセスサーバーやネットワークカ

ードなど、従来同社が扱ってこなかったネットワーク関連製品にも積極的に力を入れていくという。ファイファー氏は「2000年までにコンパックを世界で3番目のコンピュータメーカーにする」と語ったが、そのための手段の1つとして、ネットワーク製品の積極的な展開が必要と判断したのだろう。「確実なサーバー、信頼性の高い接続を提供し、インターネットの環境をオープンにする」と抱負を語った。

### インターネット関連の さまざまな事業展開

同社のネットワークへの参入に強い意欲が感じられたのは、基調講演に先立って行われたプレス向けの大きな発表会だった。エンタープライズ・コンピューティング・グループ担当上級副社長兼ゼネラルマネージャーのジョン・ローズ氏は、企業向けのサーバー戦略ではパートナーシップやコストの削減など、従来の路線をより充実させていくと述べたうえで、インターネットへの戦略を詳しく語った。「インターネットには速くデータを交換できるインフラの構築が必要」と指摘したうえで、「テクノロジーのリーダーとしてビジョンを投げかけていく」と強調した。

具体的には、Webの画像を従来よりも速く表示させるための「加速サーバー技術



ヒューストンのコンベンションセンターに各国から5,000人が集まった

(Acceleration Server technology)も、ソフトウェア会社と組んでエレクトロニックコマースのセキュリティ技術を模索するための計画、「レインメーカー・プログラム ("Rainmaker" Development Program)も、さらに、インターネットサービスプロバイダーが、会員がどれくらいの時間どのコンテンツを利用したかというデータを計測するための「MSIX (Metered Services Information Exchange)」というプロトコルの標準化を、ネットセントリック社と協力してすすめることなどを発表した。

### プロバイダーを意識したサーバー技術の開発

これらの戦略は、主にインターネットサービスプロバイダーに向けられている。ローズ氏は米国においてプロバイダー、とくに地域に根差した小・中規模のプロバイダーが急激に増えていることを指摘したうえで、この市場の将来性を評価した。

記者発表会では同時に、加速サーバー技術のデモが行われた。この技術は、まずプロバイダー側のプロキシサーバーに画像を圧縮するボードを入れてデータを圧縮させる。現在の段階では、JPEGの画像データを4分の1にするものとのことだ。ユーザー側のコンピュータに、展開ソフトをWWWブラウザ

### インターネット・ニュースの見方

一のプラグインソフトとしてインストールすることで、飛躍的にWWWの表示が速くなるという仕掛けになっている。製品として登場する時期は未定だ。現在ではGIFとJPEGにしか対応していないが、リアルオーディオなどのストリーミングアプリケーションにもいずれ対応させる予定とのことである。プロバイダーに向けてサーバーを販売するために、他社と差別化するためのさまざまな技術を模索しているということだろう。

### ネットワーク製品のラインナップを充実

通信製品グループ担当上級副社長兼ゼネラルマネージャーのアラン・ラッツ氏は、開催中に行われた日本人記者団との会見で、「パソコンは通信の手段である」と語ったうえで、リモートアクセスサーバーやネットワークカードのラインナップの拡充を推し進めると述べた。先述したジョン・ローズ氏も「ISPが使う機器すべてをコンパックは扱うことになるのか」という質問に対して「いずれは提供する予定だ」と述べている。サーバーへの付加価値や新たなプロトコルを研究する一方で、ネットワーク関連の周辺機器という具体的な事業も推進していくという点が

ら、同社のこの分野への意気込みが感じられる。

### PCメーカーとしてのインターネットへの姿勢

コンパックの今回の一連の発表からは、PCメーカーが今後戦略を進めていく中で、ネットワークに関わることを避けて通れないことを示唆している。各PCメーカーは「インターネットを重視する」とは言っているものの、具体的に何をやるかということになると明確に方針を打ち出せていないのが現状ではないだろうか。エンドユーザー向けのPCでは「インターネット」というキーワードで差別化はあまり図れない。現在できることといえば、モデムを標準で搭載するとか、接続のスターターキットをあらかじめ組み込むことくらいしかないからだ。

コンパックは世界最大のPCサーバーメーカーである。同社はエンドユーザー向けのPCメーカーとしてではなく、PCサーバーの供給者としてインターネットにどのように関わるかということを明確に宣言した。その意味で新しい方向を示したといえるだろう。

### インテル・マイクロソフトとの連携も重視する

INNOVATE FORUM開催中にはマイクロソフト社CEOのビル・ゲイツ氏とインテル社CEOのアンディ・グローブ氏の講演が行われた。ビル・ゲイツ氏は「デジタルコミュニケーションによる革命が起こっている」と述べたうえで、NetPCのデモを行った。また、アンディ・グローブ氏は次世代のCPUであるペンティアム 3の解説をしたうえで、「すべてのコンピュータはネットワーク化される」と語り、Javaのプラットフォームとしてインテルのチップがいかに優れているかを強調した。コンパック、インテル、マイクロソフトの連携を見せ付けられたショーでもあった。



講演後に握手を交わすエリック・ファイファー氏とビル・ゲイツ氏

インターネットのパフォーマンスを高める"加速サーバー技術"のデモが行われた



## Event 世界最大のコンピュータトレードショー COMDEX / Japan '97 開催

4月8日から11日まで、幕張メッセ日本コンベンションセンターにおいて、ソフトバンク・エキスポ・ジャパン主催のコンピュータ関連のトレードショー、「COMDEX / Japan '97」が開催された。COMDEXの



事前登録者数は82,076人

日本での開催は今回が初めて。国内外からの、およそ250の出展社によって、1500を超える新製品や新技術が発表された。

展示会場では、PIAFSや DATA32のサービスの開始を反映してか、ノート型パソコンやPDAといったモバイル製品が目立っていたほか、ユニデン株式会社や日本オラクル株式会社のブースで行われた、NCのデモンストレーションが目を引いた。

10日にはコンピュータ関連のメディアを中心に審査される「Best of COMDEX」の受賞製品が発表されたが、PC部門では、Best of

COMDEXに株式会社東芝の「Librette 50」が、特別賞にユニデン株式会社のネットワークコンピュータがそれぞれ選出され、会場での注目度がそのまま賞に反映される形となった。ブースの人気度では、4月14日の発表を前にインターネットエクスプローラ4.0のデモを行ったマイクロソフト株式会社、ドミノサーバーとノーツクライアントによるインターネットへの完全対応を発表したロータス株式会社、Libretteとラジオ無線の組み合わせによるモバイルエージェントの実演でにぎわう日本オラクル株式会社の3つが、他社を圧倒していた。残念なのは、海外のトレードショーで見られるような、デベロッパーがメーカーの技術者に食いつくように質問を浴びせるといった場面があまり見られなかったことだ。今後、単なる展示会ではなく、本当の意味でのトレードショーが日本で行われることに期待したい。

## Event 1万人が集まったJavaの祭典 JavaOne コンファレンス開催

4月2日から5日（米国時間）までの3日間、サンフランシスコでJavaOne コンファレンスが開催された。今年で2回目になる今回は、1万人を超える参加者を集め、Javaというプログラミング言語の注目度の高さを感じさせた。

今回のコンファレンスでは、まず今後のJavaのロードマップが明らかにされた。それによると家電機器組み込み用の「パーソナルJava」、携帯電話などの機器組み込み用の「エンベデッドJava」、基幹業務システム向けの「エンタープライズJava」、スマートカード組み込み用の「JavaCard」のスペックを夏までに発表し、年内には出荷するとしている。

そして、プログラムを書かなくてもJavaアプリケーションを開発できる「Javaスタ

ジオ」やJavaの命令セットを直接実行する「Javaチップ」を東芝などのメーカーにライセンスすることも発表された。これ以外にもネットスケープ社とともに「Javaファンデーションクラス」というGUIのクラスライブラリや「JavaPC」など数多くの発表があった。

インターネットの世界ではWWWブラウザ上の動画制御言語ではないかと誤解されたJavaだが、その開発効率の高さや一度プログラムを書けばハードウェアやオペレーティングシステムに依存しないことからネットワーク環境における利点が浸透しつつある。プログラミング言語というよりは、「Java VM」という1つのオペレーティングシステムとして捉えることができるまでになってきた。

しかもデスクトップのコンピュータ以外の機器への組み込みもにらんでいることから、今後はこれらの機器がネットワークに接続される場合の主要な技術の最右翼と考えられる。



JavaOne コンファレンスの記者発表でスマートカードを手にするCEOのスコット・マクネリ氏

## AOLはインターネットを使った 1つの統合パッケージである

AOL インターナショナル社長  
ジャック L. デイヴィス氏に聞く

「アメリカの世帯数は1億。AOLのメンバーの数が750万人ということはアメリカの7.5%の世帯がAOLを利用している計算になる。インターネットを利用している世帯数はアメリカでは15%と言われているので接続サービスとしては50%のシェアを持っている」と話すジャック氏はAOLの日本市場の立ち上げに携わった人物である。AOL ジャパン開始前日の4月14日に話を聞いた。

編集部 / 錦戸陽子

編：アメリカでAOLが急成長した理由は何だったと思いますか。AOLのセールスポイントであるグラフィカルなインターフェイスに取り組んでいた企業はほかにもありました。

J：3年半前のナンバーワンは100万人を抱えるプロディジ、次いでコンピュサーブ、さらにその次にジニーがいましたからAOLは4番目でした。そんな中で消費者がAOLを受け入れるようになった要因はいろいろなことから来ていたと思います。使いやすかった、コンテンツが面白かった、そしてデザインやそのコミュニティーが楽しいと感じてもらえたこと。また、WWWのブラウザをAOLのソフトウェアの中に統合したことで、インターネットの接続が簡単になったことも大きな要因です。低価格でシンプルな価格体系もありました。AOLはコンテンツごとのサーチャージがありません。そして試用もできます。AOLのコンテンツの楽しさを伝えるのは難しいのでCD-ROMを使って試用していただくことにしました。さらにコンピュサーブは企業ユーザーを重視していましたが、AOLは個人を対象にマーケティングを行いました。現在は仕事目的のメンバーも増えていますが、ほとんどはSOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)で仕事をしている人で、利用形態は個人そのものです。日本版のサービスも個人を対象にしています。



編：インターネット接続が簡単でコンテンツ

が面白かったという点を考えると、現在はずでにWindows95でインターネット接続が簡単になり、膨大なウェブのコンテンツも存在しています。AOLのこれからの役割は何でしょうか。

J：これから最新技術を使って最適なコンテンツを提供していきます。日本版のソフトではインターネットエクスプローラ3.0を統合していますから、快適にウェブの利用ができます。また、Windows95で簡単になったといっても、AOLのソフトはWindows3.1の人も、パソコンより高いマシンでも、さまざまな環境で動きます。



編：AOL ジャパンのコンテンツの開発戦略を教えてください。

J：1つ目はAOL ジャパンスタジオで作る独自のコンテンツ。2つ目は日経やギャガなど情報プロバイダーとのパートナーシップによる提供。3つ目はウェブをAOLのコンテンツとして統合すること。4つ目はグローバルコンテンツ。AOL ジャパンのメンバーはアメリカ版やヨーロッパ版で提供されている膨大なコンテンツを利用できます。ただ、我々は旧来のメディアで実現されている音や映像を追っているわけではありません。たとえば、ミュージックホールというスペースに有名な映画スターを呼んでイベントを開き、参加者がその映画スターにメッセージを送るといった、コミュニケーション機能を



使った新しいメディアを作っているという意識があります。



編：日本市場での最大のライバルはどこになりますか。

J：誰でも考えることですが、会員数ナンバーワンのニフティサーブです。もう1つは、価格についてもサービスについてもアグレッシブな日本のインターネットプロバイダーです。ただ、我々は既存の競合他社に焦点を合わせてサービスを考えていくのではなく、むしろ、お客さんのほうにどんなニーズがあるのかを確認してサービスを提供したい。ニーズを的確につかめば自然にシェアを拡大できるでしょう。そのほうが生産的です。しかも、一部の人のニーズを満たすではありません。人の関心が移っていったとしてもまた別の興味を満たすことができるようなメディア作りをしています。インターネットにただつなぐだけのサービスとの違いは、我々がインターネットを利用した1つの統合パッケージであるということです。AOLはウェブやコミュニケーション機能や快適な接続環境の組み合わせです。さらに個人の情報は外部からプロテクトします。



編：日本のパソコン通信サービスのいくつか、「誰でも使えるAOLのようなサービスを目指す」と言っていました。しかし、実際に成功しているとはいえません。

J：1つの業界においてオリジナルなサービスというのは1つしかありません。ですから、日本でのAOLはAOL ジャパンです。会員が増えていく過程で、何をすればもっといいサービスになるのかを考え、開発投資も他社よりはるかに大きなものになっていくと思います。

### Commerce 野村総合研究所 デジキャッシュ社から 「eキャッシュ」導入

野村総合研究所は、オランダのデジキャッシュ社からネットワーク型電子マネー「eキャッシュ」のライセンスを取得した。電子マネーではICカード型のシステムが開発されているが、新たにICカードリーダーなど利用者の負担が必要となっている。これに対してeキャッシュはソフトだけで構成されるので、新たなハードが不要。また、ブラインド署名技術により利用者の購買に関するプライバシーが保護され、小額の決済にも利用できる。ライセンスの取得により、同社では今後自社のイントラネットでもeキャッシュによる電子決済実験を開始する予定だ。

URL <http://www.nri.co.jp/index-j.html>

### Business インターネット広告費 昨年16億円、今年40億円 電通が推定値発表

電通は、「平成8年（1996年）のインターネット主要サイト（媒体）の推定広告費」を発表した。それによると、昨年のインターネット広告費は約16億円で、その約50%が10月以降の3か月間に計上されている。このため今年には広告費の大幅な増加が見込まれ、約40億円の規模になると推定している。調査は国内向け広告サイトで広告スペースの料金体系が明確化されているものを対象に、広告の掲載費と制作費を合わせて集計した。また、対象となる広告の種類はサーチエンジン系などネットワーク上の広告のほか、電子メール新聞上の広告や、インターネットとCD-ROMの組み合わせなど併用型メディアの広告も含む。

URL <http://www.dentsu.co.jp/>

### Business 電子認証の新会社 「サイバートラスト」 BUGなどが米GTE社と設立

ピーユージー、野村総合研究所、エヌ・ティ・ティ移動通信網（NTTドコモ）の3社は米国GTE社との合併で、電子認証サービスを提供する新会社「サイバートラスト」を設立した。新会社は電子認証システムの技術とノウハウの提供をGTE社から受け、GTE社が米国で行っている電子認証サービスと同レベルのサービスを国内で提供していく。サービス内容は、インターネット上の電子商取引におけるSET対応証明書の発行、電子認証システムの販売など。このうちSET対応証明書については、住友クレジットサービスとジェーシービーの2社のクレジットカード会社の利用がすでに決定している。

問い合わせ サイバートラスト(株)  
TEL011-708 - 5281

### Network NTTのデジタル専用線 10万回線を突破 ここ1年で2倍に急増

NTTは、デジタル専用線サービスの契約回線数が2月末で10万回線を突破したと発表した。昭和59年11月のサービス開始から昨年の2月までの契約は5万回線約だったが、その後1年弱で契約数は2倍に急増した。回線の速度別では、64Kbps、128Kbpsの低速系サービスが全体の約86%を占めるが、企業のデータ通信の高速化需要より、192Kbps以上の中・高速系サービスの伸びも顕著。NTTによると、近年はインターネット専用回線やLAN接続用回線としての需要が増えているという。NTTのデジタル専用線サービス品目は下記のとおり。64K、128K、192K、256K、384K、512K、768K、1M、1.5M、3M、4.5M、6M、50M、150M（通信速度単位：bps）

URL [http://www.nttinfo.ntt.co.jp/dlij/SER\\_J/senyou\\_j/kousoku.html](http://www.nttinfo.ntt.co.jp/dlij/SER_J/senyou_j/kousoku.html)

### Provider 東京インターネットが ダイヤルアップ接続の 新サービスを提供

東京インターネットは、4月1日よりダイヤルアップIP接続の新サービスを開始した。ビジネス向け従量制ダイヤルアップ接続サービスは、初期費用が30,000円で月額使用料は3円/分、メールアカウントは1つあたり500円/月。個人向けダイヤルアップサービスは、初期費用3,000円で月額基本料は2時間まで500円、追加従量価格は3円/分。固定額制ダイヤルアップサービスは初期費用30,000円で月額19,000円。また、4月1日から始まったPHSの高速データ通信サービスに合わせて、PHSからの接続ができるアクセスポイントも設置し、今後は順次増やしていくという。

問い合わせ 東京インターネット(株)  
TEL 03-3341-6386

URL <http://www.tokyonet.ad.jp/>

### Provider メディアバンクが プロバイダー加入者に 期間限定サービスを提供

メディアバンクが運営するプロバイダー「DREAM NET」は、新規加入者に特典つきサービスキャンペーンを行っている。この「DREAM NETフレッシュマン応援キャンペーン」は5月9日までで、期間中は3人同時に加入すると登録料が1人あたり980円になる（通常は1980円）。また期間中の加入者には、5月末まで新聞記事を電子メールで配信するサービス、市外通話の割引などの特典があるクレジットカード作製や、32Kデータ通信対応PHSを100人に抽選でプレゼントするサービスを用意する。これらのサービスは、フレッシュマンに限らずキャンペーン期間中に新規加入した人全員が対象になる。

問い合わせ DREAM NETユーザーサポートセンター TEL 03-5642-8165

URL <http://www.mbn.or.jp/>

Service

### ベネフィットオンライン 東京などでベビーシッターの 派遣サービス開始

ベネフィットオンラインは、会員制オンラインショッピングモールで、ベビーシッターの派遣を申し込むことができるサービスを始めた。ベビーシッターサービス大手のポピンズコーポレーションが提供するもので、通常料金に比べて低料金のサービスとなっており、入会金通常5万円が3,000円に、1時間当たりの利用料金も通常2,000円が1,950円となる。年会費は1万円。当面は東京、千葉、埼玉、神奈川に限定してサービスする。また、購入商品を近くのコンビニエンスストアなどで受け取ることができるサービス「デリナベト」は6月から開始する。

問い合わせ ベネフィット・カスタマーセンター  
TEL 03-5354-2552

URL <http://www.benefit.co.jp/>

Service

### コニカとNTTが プロ・アマ写真家の作品を インターネット上で販売

コニカはNTTと共同で、インターネット上の写真展「コニカインターネットフォトギャラリー」を開設した。プロやアマチュア写真家の作品が楽しめ、展示作品の販売・購入（紙焼き）も可能。出展希望者は、申し込み用紙と作品をコニカへ送るだけで1点から出展できる。

問い合わせ コニカ様お客様相談室  
TEL 03-5269-9745

URL <http://www.gsquare.or.jp/Konica/>



さまざまな写真家の作品が楽しめる

Service

### 郵便物の配達状況を インターネットで確認 郵政省がサービス開始

郵政省は、書留、小包、国際エクスプレスメール（EMS）などの配達状況をインターネット上で確認できるサービスを開始した。対象郵便物は上記のほか簡易書留、代金引換、配達記録郵便、翌朝郵便で、郵便物の控え番号を入力すると、配達局に到達したか、配達完了したか、郵便局留置になっているかなどの配達状況を知ることができる。

URL <http://www.postal.mpt.go.jp/>



問い合わせ番号を入れると状況がわかる

Service

### 帝国ホテルが宿泊客に メールアドレスなど提供 6月にサービスを開始

帝国ホテルは6月1日から、外国人ビジネス客を主な対象に、短期間の電子メールアドレス提供などのインターネット接続サービスを開始する。宿泊客に短期間のアドレスを即時発行するサービスは日本初で、KDDコミュニケーションズ（KCOM）との共同開発によるもの。ホテル内のビジネスセンターでIDやメールアドレスなどを発行し、KCOMのアクセスポイントより接続する。IDやアドレスは10日間有効で利用料金は2,000円。契約期間内であれば、指定したサーバーにメールを転送できるので、ホテル出発後にメールを受けることが可能。また、利用延長サービスや、次回利用時にも同じアドレスが利用できるサービスも提供する。

URL <http://www.imperialhotel.co.jp/press404.html>

Service

### マスターネットと NTTドコモが共同で 「10円メール」サービス

マスターネットとNTTドコモは共同で、インターネットメール送受信システム「10円メール」を開発した。新サービスは、ドコモの携帯電話を使ってマスターネットの10円メールサーバーにアクセスして送受信を行う。着信者払いのアクセスポイントを使用するため、2Kバイト以内のメールならば10円のマスターネット接続料のみで送受信ができる。サービス開始は5月1日。

問い合わせ マスターネット㈱  
TEL 0120-526-900

URL <http://www.masternet.or.jp/>



マスターネットのホームページ

Service

### アイキューブネット インターネット利用FAX 日・米・アジアへエリア拡大へ

インターネットを利用して米国へFAX送信できるサービス「FAXFER」を開始したアイキューブネットは、台湾のOA機器販売会社のオーロラと合併で5月にも新会社を台北に設立し、日・米・アジア間にサービスエリアを拡大する。FAXFERは通常のFAX機から専用サーバーへダイヤルするだけで米国へFAXできるサービスで、日米間はインターネットを利用するため、通常の国際回線を利用するFAXが1分210円かかるのに対し、1分50円で済むのが特徴。今回の合併会社設立は、このサービスをアジア地域にも拡大するのが目的で、アジアへは米国を経由して送信するため、1分100～150円となる。

問い合わせ ㈱アイキューブネット  
TEL 03-5358-7811

## Service am/pm がコンビニ商品のデリバリーサービスインターネットで注文

コンビニエンスストアのam/pmは、インターネットで注文を受けた商品を、各店舗から家庭やオフィスへ届けるデリバリー業務を3月24日から開始した。現在このサービスを行っているのは、電ヶ関ビル店と西新宿4丁目店の2店舗で、取扱商品はオリジナル弁当の「とれたて御膳」と「とれたて弁当」やドリンクなどをセットにしたお勧めセットメニュー。また、配達注文の翌々日以降になり、配達料200円が別途必要。am/pmでは昨年9月より、電話注文による商品のデリバリーサービスを都内近郊の13店舗ですでに展開しており、将来はデリバリーサービスを行っている全店舗でインターネットによる注文を受け付ける予定。

URL <http://www.ampm.co.jp/>

## Service ユーザー参加型の仮想都市「ネットビレッジ」7月からサービス開始

ネットビレッジは、ユーザー参加型のインターネット仮想都市「ネットビレッジ」のサービスを7月から開始する。ユーザーがビルなどを自由に建て、その中でフォーラムやバーチャルビジネスなどを運営できるサービスで、基本システムや新たな都市の情報はCD-ROMで定期配布する。初回登録料が800円で、月額利用料はCD-ROM送付料を含めて600円。

URL <http://www.netvillage.co.jp/>



CD-ROMと連動したネットビレッジ

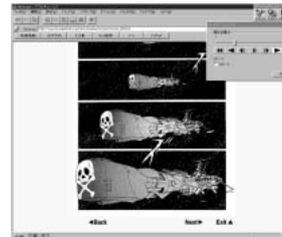
## Service ウェブ情報をテレビのように楽しめるプッシュ型の配信システムをNECが開発

NECはプッシュ型のウェブ情報サービスシステム「WebTheater」を開発した。従来のWWW情報が利用者主体であるのに対して、「WebTheater」は、情報提供者が主体となって利用者に情報を配信するプッシュ型のサービスで、情報の提供者が作成したシナリオにしたがって情報が配信される。利用者は、WWWブラウザ上で好みのシアター名をクリックしてシアターに入場すると、シナリオで指定された間隔にしたがってホームページが自動的にめくられ、スクロールが必要な場合は自動スクロールする。情報提供者は、見せたいホームページの順番を指定し、各ページの表示時間やスクロールの速さなどをシナリオの中で指定できる。また、広告についても、出現位置や時間をシナリオで設定することで、広

告の強制露出が可能になる。

現在、NECはクライアント側のソフトウェア「ブラウザマネージャ」をホームページ上に公開し、無償で提供している。また、新潮社が同社のホームページ「Web新潮」上で連載している松本零士氏の新作SFファンタジーコミック「ワルキューレ」を、「WebTheater」のコンテンツとして提供している。

URL <http://www.meshnet.or.jp/wish/webtheater/>  
URL <http://www2.aix.or.jp/shinchosha/> (Web新潮)



右上に起動しているのが「ブラウザマネージャ」

## Service NECが「BIGLOBE」上で架空チームも作れるプロ野球情報を提供

NECはインターネット上で、プロ野球情報やファンの交流を目的とした新サービスを開始した。参加者が、セ・パ両リーグの全選手から11人で架空のチームを作り、現実のペナントレースの成績から各節の順位を競う「マイドリームチーム」や、インターネット上に特定球団の「ファンクラブ」を提供する。

問い合わせ NECマルチメディアサービス商品開発本部 TEL 03-3456-7483  
URL <http://ifc.cplaza.or.jp/>



現在は中日、横浜、広島ファンクラブがある

## Service ウェブサイトのリストをプッシュ・プルで配信ビューポイントが開始

ビューポイントは、プッシュ・プル技術を使った専用のクライアント・サーバーシステムにより、利用頻度の高いウェブサイトの情報約5000件を随時提供するサービスを開始した。システムはサイトリストのデータベースサーバーとユーザーのパソコン上で稼働する専用ブラウザ「ビューポイントWebコントローラ」で構成。サイトリストはブラウザを利用する度に、サーバーから最新データが送信され、最新のリストを常時利用できる。また、同社では、通販や情報サービスを提供するサーバー側と消費者であるクライアント側を結んで、消費者の情報利用頻度に応じてポイントを発行するサービスなど、双方向の広告ビジネスも展開する。

URL <http://www.viewpoint.co.jp/>

**Business** NECや大日本印刷など  
インターネット事業で新会社  
「サイバーウィング」設立

NEC、大日本印刷、東急エージェンシーの3社は、インターネット上のサービスと現実世界でのサービスを融合したサービスを提供する新会社「サイバーウィング」を設立した。資本金は2億円で、出資比率はNECが51%、大日本印刷39%、東急エージェンシー10%。社長にはNECの三谷一二支配人が就任した。新会社では、ゴルフクラブ事業としてオンラインゴルフマガジンやオンラインショッピングなどをインターネット上で提供し、現実世界ではゴルフ場の予約受け付けや、ゴルフ競技会を主催したりする。また、インターネット音楽事業にも取り組み、音楽番組の提供や、CDのオンラインショッピングサービスなどを行う。

URL <http://www.biglobe.ne.jp/cyberwing/>

**Commerce** インターネットバンキング  
「銀行ANSER」を利用して  
NTTデータ通信が実験

NTTデータ通信は、インターネットバンキングの事業性や認証センターの運用性などを金融機関が評価・検証できるよう、同社の認証システム「銀行ANSER」を利用した実験環境を今秋から1年間の予定で提供していく。同社では、インターネット上で残高照会など照会業務を実現する実験環境「ANSER-WEB」をすでに提供しており、利用金融機関は予定も含めて約50社にのぼる。これに加え、今回、振込・振替など資金移動業務も行えるようにするもので、オープンなネットワークを利用するうえでの金融機関と顧客との契約のあり方の評価もできるようにする。実験参加の締切は5月30日。

問い合わせ NTTデータ通信(株)第四金融システム事業部 TEL 0120-344266

**Technology** 富士通研究所  
分散情報を横断検索する  
「仮想カタログ」開発

富士通研究所は、インターネット上に分散する複数のデータベース内の情報を仮想的に1つにまとめ、横断的な一括検索を可能とする「仮想カタログ」システムの開発に成功した。このシステムには、「ユーザ・エージェント」と「データベース・エージェント」、その両者間で働く「仲介エージェント」の3種類のソフトウェア・エージェントを導入しており、この3種類が協調することで仮想カタログ機能を実現する。これにより、商品名や価格などの条件を指定することで横断検索が可能となり、構成や作りの異なる複数のサーバーにいちいちアクセスする必要がなくなる。また、商品情報などの検索結果を一覧表示できるため、横並びの比較も可能となった。

**Product** デジタルカメラ「DC120」  
日本コダックが発売  
3倍ズームレンズを搭載

日本コダックは、出力解像度120万画素のデジタルカメラ「DC120ズーム」を発売した。「DC120ズーム」は3倍ズームレンズを搭載し、1.6インチのカラー液晶モニターを内蔵する。内蔵メモリーは2Mバイトで、別売のコンパクトフラッシュメモリーカード(10M)を外部記録媒体として使用できる。価格は124,800円。

問い合わせ 日本コダック(株)デジタルイメージング事業部カスタマーサポート  
TEL 03-5488-2390



「コダック デジタルサイエンス DC120  
ズーム デジタルカメラ」

**Service** デジタルカメラ画像を  
プロアーティストが加工  
シャツやマグカップに

ドリーム・アーツは4月から、デジタルカメラで撮影した画像を、日米のプロアーティストらのデザインと組み合わせて、シャツやマグカップなどに加工するサービス「ドリーム・コレクション」を開始した。申し込みや画像のやり取りはインターネット経由で行い、サービス料金は1件2,500円。

問い合わせ (株)ドリーム・アーツ  
TEL 03-5412-0481

URL <http://www.dreamarts.co.jp/>



送った画像データをデザイン処理してくれる

**Product** NTTアドバンステクノロジー  
DSU内蔵ルーター発売  
セットアップが簡単

NTTアドバンステクノロジーは米国Proteon社と共同で、LANを低コストでインターネットに接続できるようにしたDSU内蔵ルーター「AT-128RTbox」を発売した。インストールとセットアップが簡単に行えるのが特徴で、システムのプロンプト必要項目を入力するだけで、5分以内に接続が完了する。価格は148,000円。

問い合わせ NTTアドバンステクノロジー(株)  
TEL 044-220-2031



手軽なルーターAT-128RTbox



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)